

設備の老朽化対策から 社内環境の改善までサポート

課題

新設備は必要だが 借入はしたくない

これまで刺繍事業者は一般的に、縫製事業者と組んで仕事を受注してきたが、縫製工場が人件費の安い東南アジアへと進出していくと、国内の刺繍事業者は廃業が相次いだ。

株式会社ザイナスも、業態変化を余儀なくされ、数年前からは刺繍を施す商品の調達から、刺繍加工、仕上げ、納品まで一貫して請け負える体制を整えた。商品も帽子部門に注力し、売り上げの約3割を占めるようになった。

課題は、社内の作業工程が旧態依然で、所有設備も老朽化していて新しいデザインソフトに対応せず、取引先とのデータのやり取りができないことだった。これを改善するには刺繍機にソフトウェアを対応させなければならないが、そのためには高額な投資が必要で、同社では借入は避けられない。しかし、当時の経営者は借入をしない主義。しかも社内では帽子部門は後継者の仕事で、社員は誰も携わっていなかった。

支援

再度の課題抽出で 適切な支援に切り替える

こうした課題の解決に向け、東かがわ市商工会は借入を拒む経営者を説得し、補助金を活用した導入のため小規模事業者持続化補助金の申請支援を行った。また、帽子部門を担当していた後継者と相談し、BtoCの取り引きを目指すホームページ作成にも持続化補助金活用を勧め、申請支援を行った。しかし、事業を進めていくうちに、補助金活用だけでは課題が解決しないことが判明し、補助事業の廃止申請書を提出。当時は、従来の刺繍部門と後継者が始めた帽子部門の2つがまったく別々で、商工会も経営者と後継者それぞれに個別に面談をするような状況だったからだ。

このときの失敗により、商工会ではあらためて会社全体を見て課題の抽出を行うい、経営革新計画やものづくり補助金などによる支援を展開していった。

すでにデザインソフトの更新が必要なることはわかっていたので、その導入と活用について後継者と面談を実施。帽子部門は順調に伸びてきていたが、外注する帽子自体の出来が悪いので、専門家も交えて、内製化を検討。これにより、外注費は約50%のコストダウン、納期も短縮し、品質も向上した。

新しい帽子の刺繍機の導入、デザインソフト、書体ソフト



ものづくり補助金で帽子専用刺繍機を導入

の導入も同時に行った。それまでデータをフロッピーディスクで保存していたが、IT化により時間短縮を図る事業計画を作成し、ものづくり補助金の申請を支援した。同時に社内環境についても改善を勧め、後に社長になった後継者から従業員に事業計画を発表。以降は社内です話し合う習慣が生まれ、仕事について後継者にも相談する職場に変わった。

工場は設備の設置レイアウトを見直し、古くなった設備は処分し有効な工程導線を配置した。有能な職人が高齢化して社内には若い人がいないため、雇用計画についても支援。若い社員が2名とパートタイマーが入社につながった。

支援の経過

期間	支援内容
H27年5月	ヒアリング開始・持続化補助金の申請支援
H28年5月	経営革新計画の申請支援
10月	経営力向上計画・ものづくり補助金の申請支援
H29年1月	経営力向上計画の認定
3月	ものづくり補助金の採択

会社概要

会社名：株式会社ザイナス
 住所：香川県東かがわ市帰来104-1
 電話番号：0879-25-8571
 URL：https://www.zynas.xyz/
 代表者名：代表取締役 那須将司
 創業年：昭和43年
 年間売上高：4000万円
 従業員数：6名
 商工会名・担当者名：東かがわ市商工会・永峰克彦